

平成24年度
実施事業

事務事業名	私立幼稚園学校給食指導経費
-------	---------------

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	3	子育て環境の整備
主要な施策	1	①保育所、幼稚園における保育・教育の充実及び環境の整備
事務事業番号	007	事業開始年度 平成 14 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てグループ
-----	-------	-------	---------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目 的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	小学校入学を控えた園児が小学校生活に早く溶け込めるための取り組みとして学校給食を体験する。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	小学校入学前の5歳児を対象として学校給食を実施する。 実施日 平成25年1月21日～平成25年2月28日
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	前年の行政評価会議での評価は廃止であったが、幼稚園側の理解を得るに至らず継続としたところである。今後は、新たに幼小連携事業の構築を進める中で事業の必要性について検討する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費（財源内訳）の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	528	683	713	713	713
事業費 合計			528	683	713	713	713

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果 指標	① 対象児童	人	目標値	266	285	285	285	285
			実績値	260	273			
	② 実施日数	日	目標値	10	10	10	10	10
			実績値	10	10			

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
<ul style="list-style-type: none"> 給食指導は就学後に学校教育の中で行なわれるもの。 他の児童との公平性、全額を公費負担とすることの妥当性。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育のあり方、負担の公平性等を踏まえ、幼小連携事業の構築を進める中で事業の見直し・廃止を検討する。 	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市が主体に行うべき事業である <input type="radio"/> ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である <input type="radio"/> ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である <input type="radio"/> ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 小学校入学前の準備や食育という観点から、有効な事業である。
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市民、団体等から具体的な要望がある <input type="radio"/> ② 市民アンケートの結果から必要性が高い <input type="radio"/> ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い <input type="radio"/> ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 市独自の事業で幼稚園、保護者からは高い評価を受けている。
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 低予算、少労力で高い効果をあげている <input type="radio"/> ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い <input type="radio"/> ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない <input type="radio"/> ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 園児が小学校生活に早く溶け込むための取り組みとして高い効果があると考えられる。
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/> ① 成果指標の向上が見られる <input type="radio"/> ② 市民、団体等の声から成果を感じられる <input type="radio"/> ③ 目に見える形で成果があがっている <input type="radio"/> ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 個々の園児に就学への自覚が芽生え、食事のマナーの習得の機会となっている。

①担当グループによる評価 《Check》

改善	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠) 食育のあり方、負担の公平性等を踏まえ、新たな幼小連携事業の構築を進める中で事業の見直し・廃止を検討する。
-----------	--

②行政評価会議による評価 《Check》

改善	備考 給食指導の回数や受益者負担等、事業内容について関係団体との協議を継続的に行うこと。
-----------	---

③総合的な評価(当該事務事業の方向性) 《Action》

改善	備考 平成26年度から実施回数を縮減し、平成27年4月からの新たな子育てでシステムの開始に向けて、関係機関と幼小連携事業の具体策及び本事業の廃止も含めた協議を継続的に重ねること。
-----------	--

〔評価区分〕

- ◆拡大(事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業)
- ◆維持(事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施個所等に変更が生じる事業)
- ◆改善(当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業)
- ◆休止(暫定的に休止する事業)
- ◆廃止(事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業)
- ◆終了(事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業)